

少年と老犬

人とすれ違ふ

少年だ、いや青年だ

殺意に似た気迫が棘のように体を覆っている

しつかり握つた革ひもの先には

一匹の老犬が繋がれている

青年のつま先はせわしなく地面を踏み

体は前傾姿勢で、一瞬の緩みもない

暗い眼差しは既に人を殺しているかのようだ

犬の表情は重力を失つたように四方に優しく広が

眼差しは主人の苛立ちを飲み込むように静かで深い

毛並みは重力に身を任せ 主人の苛立ちを柔らかに
舐める

ずつしりとした大きな白い犬だ

茶の斑点が首筋と尻に広がっている

その老いは海のように深い

すれ違いざま青年は僕を斬っているが

同時に音もなく老犬の歩みが僕の傷を癒している

青年は、いや少年は去って行く

老犬は尻尾も振らずに去って行く

革ひもはもう見えない

老犬の姿が少年の影を抱くように

錯綜の道を歩んで行く

(2010.5.26)